

東京首都圏に次ぐ世界有数のメガリージョンである大阪都市圏。
その街づくり・都市計画・文化創造のキーパーソンとして活躍する橋爪紳也氏が、
日本の巨大都市の未来のために、いま何が必要とされるのかをわかりやすく語る。

大阪の街はどうなっていくのか

都心再生、エリアマネジメント、そして万博へ向けて



講演：橋爪紳也 はしづめしんや 氏

1960年、大阪・船場の生まれ。工学博士。専攻は建築史・都市計画・都市文化論。
大阪府特別顧問。大阪市特別顧問。大阪府立大学教授・同観光産業戦略研究所長。
大阪府市文化振興会議会議長、京都観光振興計画2020マネジメント会議委員長ほか。

狭義の学問分野にとらわれず大阪を中心に幅広く国内外の都市について研究し、自治体委員や街づくりプロデューサーとして活躍。著書『明治の迷宮都市』（平凡社、1990、のち増補・ちくま学芸文庫）、『化物屋敷』（中公新書、1994）、『日本の遊園地』（講談社現代新書、2000）、『集客都市』（日本経済新聞社、2002）、『創造するアジア都市』（NTT出版、2009）、『ツーリズムの都市デザイン』（鹿島出版会、2015）、『大大阪の時代を歩く』（洋泉社、2017）ほか。



主催：横浜国立大学「もっと横浜」プロジェクト 共催：地域連携推進機構「Next Urban Lab」

(担当＝都市科学部＋都市イノベーション学府・研究院＋教育人間科学部 教員：川添裕)

※どなたでも参加いただけます